



大学院案内 2026

川崎市立看護大学大学院 看護学研究科

Graduate School of Nursing
Kawasaki City College of Nursing

博士前期課程 / 博士後期課程



学長・副学長・研究科長あいさつ



学長
荒木田美香子

研究は、実践現場の課題から生まれ、実践の質を高めていくものです。つまり、研究は、実践改善のサイクルの中に位置づけられます。本大学院では、研究方法の修得と高度実践能力の育成を通して、川崎市の地域包括ケアシステムの発展を担う人材を育成するとともに、日本のみならず世界の看護・保健・医療分野へ成果を発信することをめざしています。大学院で仲間とともに、研究力と実践力を磨いていきましょう。



副学長（大学院担当）
齋藤 寿昭

「地域包括ケアシステムの推進に寄与する高度な専門性と実践力を備えた看護職の育成」という理念のもと、本大学院は開設されました。本学は1964年に高等専門学校として開学して以来、川崎市とともに歩み、多くの看護職を送り出してまいりました。その歩みの延長線上にある新たな教育の場が本大学院です。

本大学院では、臨床現場で培われた経験や課題意識を研究として深化させ、その成果を実践へと還元する学修を重視します。働きながらの学びを支える教育環境のもと、志を同じくする仲間とともに研鑽を積み、地域に根ざした看護の発展を担う人材をめざしましょう。



研究科長
岡田 忍

本大学院は、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる川崎市の地域包括ケアシステムを推進できる人材の養成を目指し、2025年4月に開学しました。地域包括ケアシステムの推進において、研究的視点と高度な実践力を備えた看護職の育成は不可欠であり、大学院教育は、高度実践看護の根本となる基準とされています。

本大学院で、あなたの臨床経験と大学院での学びを統合し、地域包括ケアシステムを推進できる教育研究者、高度実践者をめざしてみませんか？

専門領域の紹介

看護援助学領域

看護援助学領域は、創傷・排泄ケア研究と疼痛ケア研究を中核とした実践的研究を展開しています。博士前期課程では褥瘡予防と治療の最新エビデンスを学んで高度実践能力を涵養し、疼痛ケア研究では新たな介入手法とその評価方法についても修得していきます。

また、博士後期課程では創傷治癒メカニズムの解明・オストメイトの看護支援モデルや疼痛管理の新理論構築など、国際水準の研究を推進しています。超高齢社会の看護課題に対し、科学的根拠に基づくケア方法を開発し、本邦の医療に貢献する専門家の育成をめざします。

看護マネジメント学領域

看護マネジメント学では、看護実践を支える看護提供の場やその仕組みを組織的に捉えます。看護サービスの質保証や向上を志向するマネジメントに焦点を当て、優れた意思決定やシステムにおいて優れた成果をもたらすEBP（Evidenced-Based-Practice）を探求します。

急激な社会変化の中で看護ケアの質にも変革を起こす学術的挑戦と専門的で高度な看護の実践活動を支える基盤を構築する研究能力の修得をめざします。

感染看護学領域

新興感染症パンデミック、医療関連感染、薬剤耐性菌など、感染症に関する課題が山積する現代において、人々を感染から守るためには、専門的な知識に基づく高度な判断力と実践力を備えた専門家の存在は欠かせません。

感染看護学領域では、エビデンスに基づく卓越した実践と組織を変革できる力をもった感染症看護専門看護師、研究を通して感染症にかかわる課題の解決にチャレンジする研究者の育成をめざします。

本学の感染看護学領域では、高度実践・研究のいずれにおいても不可欠なサーベイランスについて、データの統計学的分析、解釈から活用まで深く学ぶことができます。

家族看護学領域

研究コースでは、多様化・複雑化する家族課題に対応するため、家族看護学の理論とエビデンスの蓄積が求められています。本研究コースでは、家族看護学を基盤とした研究能力を修得し、臨床・地域・教育・政策の各領域において家族支援の発展に寄与できる人材の育成をめざします。

高度実践看護コースは、家族支援専門看護師（FCNS）の取得を目指したコースです。家族を「ケアの単位」と捉え、ライフサイクルや多様な家族形態、困難を抱える家族への支援を理論と実践の両面から体系的に学びます。臨床・地域・行政の場で活躍できる高度な実践力と調整力を備えた看護職の育成をめざします。

小児看護学領域

小児看護学領域では、いかなる健康段階にあっても子どもとして尊重され、子どもとその家族が自分達らしく日々を過ごせることを大切に、健康と発達を支える看護を探求します。子どもの理解につながる諸理論と研究方法を学び、医療施設から地域・在宅を含めた多様な場において研究課題を見出し取り組みます。医療の高度化や時代要因により多様化・複雑化する子どもと家族のケアニーズに向き合い、ケアの向上と小児看護の発展に寄与する研究者・教育者の育成をめざします。

クリティカルケア看護学領域

クリティカルケア分野の専門看護師に必要な高度な知識と特定行為の実践力に加え、臨床の課題を科学的に探究する「研究能力」を同時に修得が可能です。臨床判断と研究知見を統合し、生命の危機にある患者・家族を全人的に支える次世代の看護師を育成します。臨床現場の実践知とアカデミックな視点を兼ね備え、エビデンスに基づき臨床の最前線を変革するリーダーをめざします。

精神看護学領域

精神看護学は、年齢、精神障害の有無、生活や支援の場を問わず、こころの健康に課題を抱える方々とそのご家族、さらには地域社会までを対象としています。専門看護師コース（修士）では、高度な臨床判断能力と倫理的視点を備え、複雑な課題に対応できる精神看護専門看護師を育成します。研究コース（修士・博士）では、誰もが精神的により健康で自分らしく生活できる社会の実現に向け、精神保健医療福祉の向上に寄与する研究者の育成をめざします。

在宅看護学領域

超高齢社会において、地域包括ケアシステムの中核を担う地域・在宅看護には、生活全体を見据えた高度な専門性が求められています。在宅看護学領域では、疾病や障害のみならず、生活環境、家族関係、地域資源を統合的に捉えるアセスメント能力と、多職種と連携し支援を構築する実践力を理論と研究の両面から深化させます。看護学修士課程での学修を通して、地域で生きる人々の「暮らし」を支え、地域包括ケアの質向上に貢献できる高度専門職・研究者の育成を目指します。

助産学領域

助産コースでは、助産学実践の質向上につながる研究力を基盤に、「命が生まれ、次の命へとつなぐ」人生の歩みに敬意をもって関われる助産師の育成を目標とし、多様な実習施設やNCPR（新生児蘇生法）、J-CIMELS（母体救命）、バーチャル助産所の開設、離島研修など、体験重視の教育を行っています。分娩介助を中心とした長期間の実習にも、健康的かつ主体的に取り組む意欲ある院生を歓迎します。1年次から段階的に研究力を養い、実践に根ざした研究テーマに挑戦することで、母子の命を守る確かな実践力を備えた助産師へと成長できます。

成人看護学領域

成人看護学領域では、入院中から退院後の生活までを通して捉え、患者の「症状と生活」を軸に課題を見だし、研究につながる形で言語化する力を養います。臨床と研究を往復しながら、セルフケア・意思決定支援、重症化予防、安全設計、多職種連携、医療DXを組み合わせ、再増悪・再入院を減らすケアの進め方を明確にします。さらに、量的研究で指標を、質的研究で経験や文脈を捉えて効果と実行可能性を示し、現場で継続して使える形にして実践へつなげます。テーマ設定から介入の組み立て、評価、発表・論文化までを一貫して進められることも特長です。

老年看護学領域

超高齢社会において、加齢に伴う身体・認知・社会的機能の変化が「その人」とその周辺への生活に及ぼす影響を理解し、尊厳を支える高度な専門性が求められています。本領域では、精緻なアセスメント力と多職種を繋ぐ調整力を基盤に、個性を重視した質の高い支援を追求します。前期・後期課程を通じ、複雑なニーズを持つ高齢者とその家族を支え、臨床実践の変革やQOL向上に寄与できる実践者・研究者の育成を行います。

公衆衛生看護学領域

少子高齢化、健康格差、災害・感染症など複雑化する地域課題に対応するため、公衆衛生看護学の高度な専門性が求められています。本領域では、対象は母親・乳幼児期から高齢者までを範囲として、地域アセスメント、多職種・多機関連携、EBPMの視点を重視し、問題意識をもって研究に取り組んでいただきます。前期・後期課程を通して地域保健を牽引できる実践者・研究者の育成を行います。

医療経営学領域

医療経営学領域では、2040年に向けた新たな地域医療構想を踏まえた地域の医療提供体制を背景に、受講者の所属する医療機関の経営戦略の立案に資するような研究に取り組んでいただきます。病院の副院長や看護部長、訪問看護ステーションの経営者など看護職も組織の経営に係る方が増えていきます。そのため、経営学の諸理論を医療経営に活用できるように研究を深めていただきます。現在の受講生の研究テーマは、ダイナミックケイパビリティ理論を用いた地域医療構想における自施設の経営戦略の策定、研究を進めています。



博士前期課程

入学を受け入れの方針

- 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専門領域の基礎知識を有する人
- 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
- 看護学を通じて地域包括ケアシステムの改善・発展に貢献する意志を有する人
- 高度実践看護コース志望者は、対応する分野の職務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
- 助産コース志願者は、助産師の免許取得を志す人で、看護師資格又は看護師国家試験受験資格を有する人

研究コースでは、看護系以外の大学卒業者や学士の資格を有さない社会人（3年以上の保健・医療・介護・社会福祉サービス等に係る職務経験を有する者など）も出願可能

学位授与の方針

研究コース

- 看護学研究を進めるうえで必要な研究手法を修得し、設定した研究課題を研究のプロセスに沿って科学的に解決する能力を有している。
- 地域や社会の保健医療福祉に関わる課題解決及び看護ケアの向上に資する研究を遂行する能力を有している。
- 保健・医療・福祉専門職として生涯にわたって自己研鑽し続け、プロフェッショナルとしての高い意識と倫理観をもって行動できる力を有している。

高度実践看護コース

- 看護学研究の基本的な研究手法を理解し、専門領域の実践における課題を科学的な視点を持って分析する能力を有している。
- 専門領域に精通した臨床判断に基づき、ケアとキュアを融合する看護実践力を有している。
- リーダーシップとフォロワーシップを発揮して多職種・組織メンバーと連携・協働し、より質の高いケアを行うための相談、調整ができる。
- 看護職を含む組織のケア提供者に対して、専門的な知識や能力を活用し、教育的役割を果たすことができる。
- 患者・利用者・家族に生じている倫理的な問題や葛藤の解決をはかり、患者・利用者・家族の権利、尊厳を守ることができる。

助産コース

- 看護学研究の基本的な研究手法を理解し、助産領域の実践における課題を科学的な視点を持って分析する能力を有している。
- 専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を有している。
- 周産期のみならずライフサイクル全般にあるすべての女性、子ども、家族そして地域社会に対して健康増進を考え、生命への尊厳を持って、個人の価値観を尊重した適切な相談、教育、支援を行うことができる。

長期履修制度について

助産コースを除く博士前期課程に限り、職業を有するなどの理由により、標準修業年限（2年間）では大学院の教育課程の履修が困難な場合、標準修業年限を1年間延長し、3年間を上限とした長期の修業年限を設定することができます。本制度を利用する場合は、出願時に申し出が必要となります。

本制度を利用した場合、2年間分の授業料を3年間でお支払いいただきます。

多様なコースと専門領域

- 高度実践看護コースを修了することで、日本看護協会が認定する以下の専門看護師（履修した領域に関連するものに限る）の受験資格を得ることができます。

履修領域と専門看護師資格

- ・ 家族看護学領域……家族支援専門看護師
- ・ 精神看護学領域……精神看護専門看護師
- ・ クリティカルケア看護学領域……急性・重症患者看護専門看護師
(家族看護学領域については、「高度実践看護師教育課程」認定申請予定)
- ・ 感染看護学領域……感染症看護専門看護師
- ・ 在宅看護学領域……在宅看護専門看護師

- 高度実践看護コースを履修する者は、当該専門領域に関連する特定行為研修区分別科目（詳細はカリキュラムと修了要件参照）を履修することで、当該区分に関わる特定行為研修修了証が交付されます。
- 助産コースを修了することで、助産師国家試験の受験資格を得ることができます。
- 通算3年以上の看護師長相当以上の看護管理の経験を有する者が、看護管理に関連する学問領域を履修し、かつ、看護管理に関する論文を作成した上で博士前期課程を修了することで、認定看護管理者の受験資格を得ることができます。

博士前期課程（2年*）

基盤看護学分野

研究コース

家族看護学
看護マネジメント学
看護援助学
感染看護学

高度実践看護コース

家族看護学
感染看護学

地域包括ケア看護学分野

研究コース

小児看護学
成人看護学
老年看護学
在宅看護学
精神看護学
公衆衛生看護学
医療経営学

高度実践看護コース

クリティカルケア看護学
在宅看護学
精神看護学

助産学分野

助産コース

助産学

入学定員 18名
〔うち助産コース〕
3名
学位
修士（看護学）

研究コースと高度実践看護コースには長期履修制度（3年間）があります

カリキュラムと修了要件

| | | 授業科目 | 研究コース | 高度実践看護コース | 助産コース |
|--------|-------------|--|-------|-----------|-------|
| 共通基盤科目 | 専門基礎科目 | 「臨床病態生理学」「フィジカルアセスメント論」などの専門看護師・特定行為研修の共通科目の講義等〔6科目〕 | 選択 | 必修・選択 | 選択 |
| | 看護学基盤科目 | 「看護研究方法論Ⅰ（概論）」「看護倫理学」などの講義〔11科目〕 | 必修・選択 | 必修・選択 | 必修・選択 |
| | 看護学専門科目 | 各専門領域に応じた講義・演習〔各8科目〕 | 選択必修 | 選択 | 選択 |
| | 高度実践看護コース科目 | 各専門領域に応じた講義・演習・実習〔各11科目又は14科目〕 | — | 選択必修 | — |
| | 特定行為研修区分別科目 | 特定行為区分別科目（※）に対応する講義・実習〔全15科目〕 | — | 選択 | — |
| 助産専門科目 | 基礎助産学 | 「助産学概論」などの講義〔3科目〕 | — | — | 必修 |
| | 助産管理 | 「助産管理Ⅰ（基礎）」などの講義〔2科目〕 | — | — | 必修 |
| | 助産診断・技術学 | 「周産期助産学」「助産診断・技術学Ⅱ（妊娠）」などの講義・演習〔10科目〕 | — | — | 必修 |
| | 地域母子保健 | 「国際母子保健」「地域母子保健」の講義〔2科目〕 | — | — | 必修 |
| | 臨地実習 | 「助産学実習Ⅱ（実践・病院）」「助産学実習Ⅵ（実践地域）」などの実習〔6科目〕 | — | — | 必修 |
| | 課題研究 | 「助産学課題研究Ⅰ（基礎）」などの演習〔2科目〕 | — | — | 必修 |

※外科術後病棟管理領域パッケージ、在宅・慢性期領域パッケージ、栄養及び水分管理に係る薬剤投与に関連、呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連、感染に係る薬剤投与に関連、精神及び神経症状に係る薬剤投与に関連

修了要件

- **研究コース** → 専門基礎科目、看護学基盤科目及び看護学専門科目から14単位以上、選択した専門領域の看護学専門科目を16単位、計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格
- **高度実践看護コース** → 専門基礎科目（定められた科目）から6単位、看護学基盤科目（定められた科目）から8単位以上、選択した専門領域の高度実践看護コース科目を28単位以上、計42単位以上を修得し、課題研究の審査に合格
- **助産コース** → 助産専門科目49単位、専門基礎科目、看護学基盤科目及び看護学専門科目（各専門領域の「講義Ⅰ（基礎）」に限る）から12単位以上、計61単位を修得し、課題研究の審査に合格

博士後期課程

入学者受け入れの方針

- 職務に関する知見を有し、看護学への探求心を有する人
- 看護学研究に対する強い動機と基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
- 研究を通して、看護学や看護実践の発展に寄与するとともに、地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

学位授与の方針

- 看護学における理論的基盤の構築を目指す研究を自立して行う能力を有している
- 変化し続ける地域や社会の保健医療福祉におけるニーズに対応し、研究を通じてケアの質保証・質向上に貢献する能力を有している。
- 看護学研究において、次世代を教育する能力を有している。
- 学際的かつグローバル的な観点に立って看護の課題に取り組み、リーダーシップを発揮し、社会に発信していく能力を有している

専門領域

博士後期課程 (3年)

基盤看護学分野

看護援助学
感染看護学

地域包括ケア看護学分野

老年看護学 精神看護学
公衆衛生看護学 医療経営学

入学定員：5名

学位：博士（看護学）

カリキュラムと修了要件

| 授業科目 | | 履修 |
|--------|----------------------------------|-------|
| 共通基盤科目 | 「英語論文作成演習Ⅰ」「看護研究法特論Ⅰ」などの講義〔全8科目〕 | 必修・選択 |
| 専門科目 | 6つの専門領域に応じた講義・演習〔各4科目〕 | 選択必修 |
| 研究科目 | 6つの専門領域に応じた研究〔各3科目〕 | 選択必修 |

修了要件

共通基盤科目から6単位以上、選択した専門領域の専門科目を8単位、選択した専門領域の研究科目を6単位、計20単位以上を修得し、博士論文の審査に合格



大学院生の声

私は普段、教員として働く中で、教育と研究の両方を大切にしながら、研究を深めていく力を身につけたいと考え、博士後期課程に進学しました。

大学院では、研究を進めるための方法を基盤に、研究者・教育者としての考え方や姿勢についても先生方から学んでいます。新しい知識を得ることはもちろんですが、先生方や同期の院生との出会いも大変貴重な学びとなっています。遠方在住ですが、オンライン授業やゼミ、丁寧なメール指導を通じて、自ら課題を整理しながら研究に取り組むことができます。恵まれた学びの環境の中で、研究者としての自立に向けて、一歩ずつ前進していることを実感しています。

(博士後期課程 Sさん)

2017年に川崎市立看護短期大学を卒業後、市内の大学病院へ就職し、外科病棟勤務を経験しました。その後、実習指導教員として川崎市立看護大学の学部生と関わる機会があり、看護の奥深さと面白さを改めて感じたことをきっかけに、看護をさらに深めていきたいと考え、大学院への進学を決めました。

現在は、成人看護学領域の研究コースで学んでいます。さまざまなフィールドで活躍してきた同級生とともに学ぶ授業は刺激的で、多様な視点から学びを深められることに大きな充実感を得ています。将来は教員として臨床と教育を繋ぐ存在となれるように頑張っていきたいと思います。

(博士前期課程研究コース Hさん)



病院勤務を8年続けた後、これまでの経験を深め、形にしたいと考え、母校の大学院新設をきっかけに進学を決めました。

大学院では、臨床での経験を掘り下げ、その背景や根拠を多角的に考察しながら、さまざまな経験を持つ仲間と共に学んでいます。臨床で培った実践と理論を結び付けて深めていくことは、これまでの経験を整理し、より確かな判断や支援へとつなげる貴重な機会になっています。

臨床で感じた疑問や課題に対してより本質的に向き合うスキルは、大学院という学びの場で、確実に培われていくと実感しています。

(博士前期課程高度実践看護コース Uさん)

幼少期からの夢である助産師を目指し、実践と研究を両立できる本学に進学しました。先生方が学生一人ひとりに手厚く丁寧にご指導くださる環境に、入学して良かったと日々感じています。

本学では1年間の継続事例実習を通し、妊娠期から産後1年まで一人の妊婦さんに深く関わりながら学ぶことができます。研究面においても、個々の理解度に応じて基礎から丁寧に導いていただけ、他領域の院生との交流から臨床の事例を聞けることも大きな刺激になっています。

今後は分娩介助や離島実習を通し、産前から産後まで一貫した支援のあり方を学び、あらゆる場面でも柔軟に母子を支えられる確かな実践力を身につけて、理想の助産師像に近づいていきたいです。

(博士前期課程助産コース Fさん)

入学から修了までのスケジュール

博士前期課程 研究コース（2年間、出願時に3年間の長期履修の申請が可能）

| 一年次 | | | | | | | | | | | | 二年次 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------|----|----|---------|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------------|---------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------|--------|-------------|------|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 入学 | 共通基盤科目の講義 | | | | | | | | | | | 研究経過報告会 | 看護学専門科目の講義・演習 | | | | | | | | | | | 研究中間報告会 | 修士論文提出 | 修士論文審査会（公開） | 学位授与 |
| 【修士論文の作成スケジュール】 | | | | | | | | | | | | データ収集・分析・論文執筆 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文献検討 | | | | 研究計画書作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

博士前期課程 高度実践看護コース（2年間、出願時に3年間の長期履修の申請が可能）

| 一年次 | | | | | | | | | | | | 二年次 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------|----|----|---------|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------------|-----------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|--------|-------------|------|--|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 入学 | 共通基盤科目の講義 | | | | | | | | | | | 研究経過報告会 | 高度実践コース科目の講義・演習 | | | | | | | | | | | 課題研究提出 | 課題研究審査会（公開） | 学位授与 | |
| 【課題研究の作成スケジュール】 | | | | | | | | | | | | データ収集・分析・論文執筆 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文献検討 | | | | 研究計画書作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

前期課程 助産コース（2年間）

| 一年次 | | | | | | | | | | | | 二年次 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------|----|----|---------|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------------|--------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|--------|-------------|------|--|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | |
| 入学 | 共通基盤科目の講義 | | | | | | | | | | | 研究経過報告会 | 助産専門科目の講義・演習 | | | | | | | | | | | 課題研究提出 | 課題研究審査会（公開） | 学位授与 | |
| 【課題研究の作成スケジュール】 | | | | | | | | | | | | データ収集・分析・論文執筆 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文献検討 | | | | 研究計画書作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

博士後期課程

| 一年次 | | | | | | | | | | | | 二年次 | | | | | | | | | | | | 三年次 | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------|----|----|---------|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------------|-------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----------|------|----------|--------|-------------|------|-----|-----|-----|----|----|----|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 入学 | 共通基盤科目の講義 | | | | | | | | | | | 研究経過報告会 | 専門科目演習・研究科目 | | | | | | | | | | | 研究科目 | 予備審査 | 予備審査結果報告 | 博士論文提出 | 博士論文審査会（公開） | 学位授与 | | | | | | |
| 【博士論文の作成スケジュール】 | | | | | | | | | | | | データ収集・分析・論文執筆 | | | | | | | | | | | | 副論文執筆・投稿 | | | | | | | | | | | |
| 文献検討 | | | | 研究計画書作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

時間割

| 時限 | 1限 | 2限 | 3限 | 4限 | 5限 | 6限 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 開始 | 10:00 | 12:20 | 14:10 | 16:00 | 18:15 | 20:05 |
| 終了 | 11:40 | 14:00 | 15:50 | 17:40 | 19:55 | 21:45 |

- 平日は5・6限を基本、土曜日も開講…就業しながら通うことを想定した時間割
- 自宅や職場からでも参加できるオンライン授業が中心
- 専門基礎科目はいつでもどこでも学べるe-learningを活用

博士前期課程 研究コースの例（令和7年度1年前期）

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|---|----------|--------|------------------------------|--------|-------|
| 1限 | | | | | | |
| 2限 | | | | | | |
| 3限 | | | | | | 看護倫理学 |
| 4限 | | | | | | |
| 5限 | | | 看護援助学Ⅰ | 18:30～ 第1、3 研究指導 教員 面談 | | |
| 6限 | | 感染看護看護学Ⅰ | 看護援助学Ⅰ | 看護研究方法論 | 自己課題時間 | |

博士前期課程 高度実践看護コースの例（令和7年度1年後期）

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | | 集中講義 |
|----|---|-------------------|-------|-------------------|---|---|------------------|--|
| | | | | | | 前半 | 後半 | |
| 1限 | | | | | | 感染看護学講義Ⅳ オンライン | 看護コンサルテー ション論 | 感染看護学課題研究 第2キャンパスで対面 ○/○、●/● 3限 |
| 2限 | | | | | | 感染看護学講義Ⅳ オンライン | 看護コンサルテー ション論 | 感染看護学演習Ⅱ オンライン |
| 3限 | | | | | | 統計学（基礎） | 統計学（基礎） | 感染看護学演習Ⅲ 第2キャンパスで対面 □/□ 1～4限 ■/■ 1・2限 |
| 4限 | | | | | | 臨床推論/疾病・臨床病態概論/医療 安全と特定行為実践・演習・実習・科 目終了試験 | | |
| 5限 | | 看護理論 | 看護教育論 | 感染看護学講義Ⅵ オンライン | | | | |
| 6限 | | 感染看護学講義Ⅴ オンライン | | 課題研究 オンライン | | | | |

- 共通基盤科目（高度実践看護コースでは専門看護師の受験資格を得るために14単位以上の履修が必要）
 看護基盤科目（研究コース）/高度実践看護コース科目（高度実践看護コース），領域ごとに設定

博士後期課程 共通基盤科目の例

前期

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|---|----------|-----------|---|---|---|
| 1限 | | | | | | |
| 2限 | | | | | | |
| 3限 | | | | | | |
| 4限 | | | | | | |
| 5限 | | 看護研究法特論Ⅰ | 英語論文作成演習Ⅰ | | | |
| 6限 | | | | | | |

後期

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|---|---------|----------|---|-----------|----------|
| 1限 | | | | | | |
| 2限 | | | | | | |
| 3限 | | | | | | 看護研究法特論Ⅲ |
| 4限 | | | | | | 看護研究法特論Ⅲ |
| 5限 | | 統計学（応用） | 看護研究法特論Ⅱ | | 英語論文作成演習Ⅱ | |
| 6限 | | | 看護学教育特論 | | | |

後期課程では、共通基盤科目6単位（3科目）以上の履修が必要

- 科目の開講時期は年度により変更になる場合があります。
- 科目等履修生の制度（次頁参照）を活用して入学前に大学院の科目を履修することで、入学後の負担を減らすことができます。

入学選考料・入学料・授業料

| | |
|-------|--|
| 入学選考料 | 30,000円 (川崎市立看護大学学部生及び大学院生は不要) |
| 入学料 | 282,000円 (受験年度の4月1日以前から引き続き川崎市内に在住又は在勤している方は141,000円) |
| 授業料 | 535,800円／年 (長期履修制度を活用した場合は、2年間分を3年間で徴収) |

入学者選抜試験

- 入学者選抜試験は年二回（第一期 9月中旬、第二期 1月下旬）実施します。
- 詳細は本学ホームページをご覧ください。

博士前期課程 選抜方法

| 入学区分 | 試験内容 | | |
|-------|--------|-----------|-------------------|
| | 配点 | | |
| 一般選抜 | 英語（読解） | 看護専門（記述式） | 面接 |
| | 30 | 30 | 40 |
| 社会人選抜 | 英語（読解） | 看護専門（記述式） | 面接 (職務経験内容を含む) |
| | 20 | 30 | 50 |

博士後期課程 選抜方法

| 入学区分 | 試験内容 | | |
|-------|--------|-----------|-------------------|
| | 配点 | | |
| 一般選抜 | 英語（読解） | 看護専門（記述式） | 面接 |
| | 30 | 30 | 40 |
| 社会人選抜 | 英語（読解） | 看護専門（記述式） | 面接 (職務経験内容を含む) |
| | 20 | 30 | 50 |

科目等履修生について

- 大学院受験資格を有している場合、科目等履修生になることで、入学前に大学院の一部科目を履修することができます。取得した単位は、本学大学院の単位として認定されます。
- 科目等履修生の募集要項は、12月ごろホームページに掲載されます。

院生研究費について

- 学位論文に関する研究を支援する目的で、研究費を交付しています。
交付基準額は、1年次ごとに50,000円を上限としています。
長期履修制度利用者の場合、1年次目は30,000円、2年次目、3年次目は、それぞれ35,000円を上限としています。この研究費は、研究に関連する様々な用途に使用できます。

大学院担当教員の連絡先と研究テーマ

博士前期課程

| 教育分野 | 専門領域 | 指導教員 | 研究領域 | 連絡先 |
|-------------|-------------|----------------------------------|--|------------------------------|
| 基盤看護学分野 | 看護援助学 | 掛田 崇寛 | 疼痛看護、看護ケア技術開発 | kakeda-t@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 佐藤 文 | 排泄・ストーマケア、創傷・スキンケア 高齢者の慢性浮腫、フットケア | sato-a@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 看護マネジメント学 | 豊増 佳子 | 看護教育、看護管理、看護情報、遠隔看護 | toyomasu-k@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 感染看護学 | 岡田 忍 | 高齢者の口腔ケア・スキンケア、在宅における感染防止 | okada-s@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 川上 和美 | 医療関連感染予防、手指衛生、感染リスクアセスメント 抗菌薬適正使用、高齢者施設 | kawakami-k@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 家族看護学 | 荒木田 美香子 | 母子・成人保健と家族支援、発達障害と家族支援 | arakida-m@kawasaki-cn.ac.jp |
| 田中 千代 | | 小児看護、思春期看護、小児在宅ケア | tanaka-c@kawasaki-cn.ac.jp | |
| 地域包括ケア看護学分野 | 小児看護学 | 田中 千代 | 小児看護、思春期看護、小児在宅ケア | tanaka-c@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 成人看護学 | 糸井 裕子 | がん看護、慢性期看護、看護教育 | itoi-y@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 松田 有子 | 救急看護、周術期看護 | matsuda-y@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 田中 範佳 | 周術期看護、急性期看護 | tanaka-n@kawasaki-cn.ac.jp |
| | クリティカルケア看護学 | 牛尾 陽子 | クリティカルケア看護、急性期看護、看護師の実践知 | ushio-y@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 老年看護学 | 佐藤 文 | 排泄・ストーマケア、創傷・スキンケア、高齢者の慢性浮腫 フットケア | sato-a@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 精神看護学 | 廣川 聖子 | 自殺予防、アウトリーチ | hirokawa-s@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 野沢 恭介 | 自殺対策、メンタルヘルスケア | nozawa-k@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 在宅看護学 | 木全 真理 | 訪問看護、地域包括ケアシステム | kimata-m@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 湯本 晶代 | 訪問看護、在宅における認知症ケア | yumoto-a@kawasaki-cn.ac.jp |
| 公衆衛生看護学 | 荒木田 美香子 | 母子・学校保健、成人・産業保健、健康教育 健康関連尺度開発 | arakida-m@kawasaki-cn.ac.jp | |
| 医療経営学 | 羽田 明浩 | 医療経営戦略、ヘルスケア組織論、経営分析 マーケティング | haneda-a@kawasaki-cn.ac.jp | |
| 助産学分野 | 助産学 | 山崎 由美子 | 周産期医療過誤、助産師教育、周産期メンタルヘルス | yamazaki-y@kawasaki-cn.ac.jp |

博士後期課程

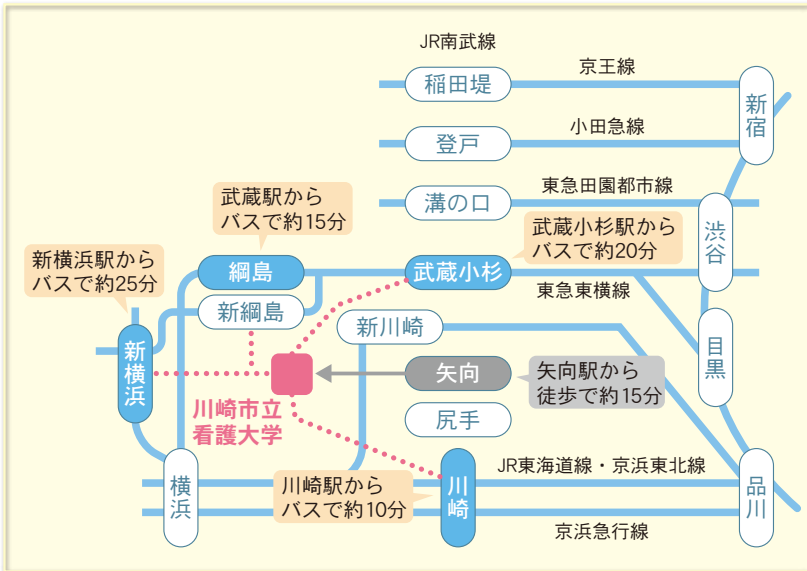
| 教育分野 | 専門領域 | 指導教員 | 研究領域 | 連絡先 |
|-----------------|---------|--|--------------------------------------|------------------------------|
| 基盤看護学分野 | 看護援助学 | 掛田 崇寛 | 疼痛看護、看護ケア技術開発 | kakeda-t@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 佐藤 文 | 排泄・ストーマケア、創傷・スキンケア 高齢者の慢性浮腫、フットケア | sato-a@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 糸井 裕子 | がん看護、慢性期看護、看護教育 | itoi-y@kawasaki-cn.ac.jp |
| | | 田中 範佳 | 周術期看護、急性期看護 | tanaka-n@kawasaki-cn.ac.jp |
| 感染看護学 | 岡田 忍 | 高齢者の口腔ケア・スキンケア 在宅における感染防止 | okada-s@kawasaki-cn.ac.jp | |
| | 川上 和美 | 医療関連感染予防、手指衛生、感染リスクアセスメント 抗菌薬適正使用、高齢者施設 | kawakami-k@kawasaki-cn.ac.jp | |
| 看護学分野 地域包括ケア | 老年看護学 | 佐藤 文 | 排泄・ストーマケア、創傷・スキンケア、高齢者の慢性浮腫 フットケア | sato-a@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 精神看護学 | 廣川 聖子 | 自殺予防、アウトリーチ | hirokawa-s@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 公衆衛生看護学 | 荒木田 美香子 | 母子・学校保健、成人・産業保健、健康教育 健康関連尺度開発 | arakida-m@kawasaki-cn.ac.jp |
| | 医療経営学 | 羽田 明浩 | 医療経営戦略、ヘルスケア組織論 経営分析マーケティング | haneda-a@kawasaki-cn.ac.jp |

アクセス

第1キャンパス（幸区小倉）

〔川崎市幸区小倉4-30-1 大学校舎〕

博士前期課程助産コースで使用



- ・川崎駅からバスで14分
- ・武蔵小杉駅からバスで約20分
(バス降車後徒歩約5分)

第2キャンパス（川崎駅前）

〔川崎市川崎区駅前本町11-2 川崎フロンティア・ビル10階〕

共通科目、共通基盤科目は主に第2キャンパスを使用



・川崎駅北口から徒歩3分

川崎市立看護大学ホームページ



二次元コードからホームページをチェック!



<https://www.kawasaki-cn.ac.jp>

川崎市立看護大学 LINE公式アカウント

教員紹介、入試、学費などの情報を配信しています



二次元コードから、お友達登録よろしくお願いします

